

令和 6 年度第 2 回市貝町学校規模適正化検討委員会会議録

1 日時

令和 6 年 10 月 21 日（月）

午後 6 時 00 分 開会

午後 8 時 00 分 閉会

2 場所

市貝町役場 大会議室

3 出席者

別紙名簿のとおり

4 欠席者

市貝町立小貝小学校 PTA 会長：皆川 裕一

市貝町立中学校校長代表：永嶋 弘典

市貝町事務連絡員協議会会長：和田 政一

5 議事

ワークショップ

(1) 現在の学習環境から改善する点、残していく点

(2) ①学校の規模について

②学校への通学環境について

③学校への位置について

6 議事の内容

1.開会

川上課長（進行）

2.委員長あいさつ

佐藤委員長【あいさつ】

3.議事内容 議事進行：委員長

○議事内容

(1) 現在の学習環境から改善する点、残していく点

委員長

議事内容の第 1 「現在の学習環境から改善する点、残していく点」を議題といたしま

す。事務局より説明をお願いいたします。

事務局

【荒川係長説明】

委員長

事務局より説明があったが、ご意見・ご質問があったら、お聞きしたい。

(意見なし)

それでは大学より持ってきた資料の説明をしたい。

【委員長説明】

今の説明で、ご意見・ご質問があったら、お聞きしたい。

事務局

児童生徒の移動距離が最小になる点と書かれているが、北部の子は2040年になるといなくなる可能性が高く、0歳から9歳の子が住んでいる地域が限られるためこの位置のところになるという解釈でよいのか。

委員長

最大移動距離はどの年代でも変更がない。つまり、人数は少ないかもしれないが、一番遠いところに子供がいるのは変わらない。例えば拠点の近くに子供がたくさんいる場合と、遠くに一人二人いる場合の平均を取るとそれが一番小さくなる。

事務局

それが委員長がおっしゃっていた公平性ですか。

委員長

そうです。最大距離を小さくする計算ができますが、そうすると大体地域の境界の端に拠点が出てくることになります。こういう時は市町村合併が基本となっています。

事務局

この1拠点、2拠点というのは、小学校で1拠点なのか義務教育学校として考えられているのか。

委員

小学校6学年と中学校3学年を推計しているため、小学校・中学校・義務教育学校のどれでも考えることができます。

事務局

2015年の実績で仕方がないと思いますが、現在の市貝中学校の北西の方向に約400世帯の住宅団地が出来ており、その場合は2拠点の位置は下の方に動きますか。

委員

動くかどうかは計算をしてみないと分からない。

委員長

2020年の推計人口が782.52であり、100人を超えるようであれば動く可能性もある。

事務局

現在、この団地の子どもたちは、市貝小に通っていますが、その割合はどのくらいになりますか。

委員

約4割ほどになります。

委員

自分はそこに住んで8年になりますが、この8年の間で一気に増えました。

ワークショップ①

A グループ発表

共通して出てきた問題が、施設の老朽化に関することです。トイレの臭いや、施設の修繕にかかるコストの心配が出てきました。他にも、通学路や学校敷地の安全性について、道路が狭くガードレールがない。スクールバスと歩行者が接触する危険性がある。また、クラスの人数が今後少なくなってしまうので、どうしていくのかという意見が出ました。

残していく点としては、地域とのつながり、文武両道ができる環境、自由にのびのびと学ぶことができること、また、管理職の先生や違う学年の先生、友人など、様々な人と関われる環境があげられました。

B グループ発表

改善すべき点として4つあり、1つ目は、建物の老朽化についてです。特に体育館の空調がないというのは、子どもたちが運動をする中で厳しいとの意見が出ました。2つ目に、通学環境についてです。歩道に白線はあるが縁石がないので、縁石を整備して歩ける環境が欲しいとの意見が出ました。また、スクールバスの整備は良いことであるが、それによって子どもたちが歩かなくなってしまう、地域を知ることが出来なくなり、体力がなくなってしまうのではないかと意見も出ました。3つ目は、タブレットが子ども達に1台ずつ支給されているが、家に持ち帰った際にどのように活用していくべきか考える必要があるということです。最後は、児童数の減少により少人数の学級化が進んでしまうところです。子ども達がより多くの友達との交流ができるというのは、小さい時の経験として必要なものだと思うので、それができなくなってしまう状況は良くないのではないかと。

残していく点として2つあり1つ目は、学校周辺の自然環境です。中学校は、校庭が野球とサッカーが同時にできるくらい広いので、そこは強みになると思います。また、子ども達は土日は、ベルモールに行って遊びたいんだと言いますが、大人の視点から見ると子どもの内から自然環境に触れて学べる環境は残していくべきではないかという声が上がりました。2つ目に、地域とのつながりとして、イベントに地域の人に参加できたり、子ども達の日常生活に地域の人が入り込んでいける繋がりの良いものなので残していくべきでないかとの意見が出ました。

C グループ発表

改善する点として3つ挙げられました。1つ目が設備の面で、現在施設の老朽化が目立つので、修繕する費用や今後どうしていくのが問題点として挙げられました。2つ目が通学環境についてで、スクールバスが多く使われているので、ただ乗っているだけだと地域の方との交流がなくなったり、児童が歩かないので目が覚めない状態で学校に行ったり、バスが2便の運航状況なので児童の負担が大きくなっているという意見が挙げられました。3つ目が、クラスの人数の偏りです。一つの学校になってしまうと、30人以上の学級となり指導が行き届かなくなる恐れがある。また、少人数では、複数の学年で授業を行うこととなり、難しいという意見がでました。

残していく点としては2つに分けられ1つ目は、自然を生かした遊びができることで子ども達が、自然に触れあって育つことができる。また、小貝小学校の児童は木造校舎ということで、環境を生かした教育ができるとお聞きしました。2つ目に学習環境ということで、ICTの活用と地域の方との交流であったり、地域の特徴のある学習が残っていければよいとの意見がでました。

委員長

それぞれのグループより発表があったが、ご意見・ご質問があったら、お聞きしたい。

委員

子どもの時に育つ環境として、自然環境が多いことは良いことだと思うのでそこを押ししていきたい。

委員長

地域のお祭りなど地域ごとに色々学んでいく仕組みはあった方がいいかと思う。自分たちの住んでいる地域のことを1年生から学べば6年生までに6回学ぶことができる。

—————協議事項（1）終了—————

○議事内容

- (2) A グループ ①学校の規模について
- B グループ ②学校への通学環境について
- C グループ ③学校への位置について

ワークショップ②

A グループ発表

共通の意見として出たのは、1学年2クラスの規模を維持していきたいので、統合は致し方ないというものです。ただ統合の仕方は、それぞれ意見が分かれ、小学校中学校をまとめた義務教育学校であれば小学校1年生から中学校3年生まで一貫した教育プロ

グラムを組みやすく地域との関わりやすいのではないかといたことが挙げられました。しかし、9年間同じ環境に居続けることになり、特別な対応が必要な子達に適した規模感の学校も必要なのではという意見もありました。もし統合を考えた場合には、候補として中央公民館付近が図書館なども近いので良いのではないかと意見が出ました。また、人口減少を緩やかにするような子育て政策をしていくべきだという意見もありました。

委員

現在学区に分かれて通う学校が決められているが、配慮が必要な子は学区から外れてしまうと思うが、それはどうしていくのか。

委員

通学方法にフレキシブルを持たせ選べるようになれば良いのかと思う。自分で通いたい場所を選べるようになるには制度を変える必要がある。

委員

現在の制度を考えるとそうなるかもしれないが、これからは学区が一緒になるだろうという前提で話す必要があると。

委員

義務教育学校だと9年間になると思うが、今は小学校6年生が一番上の児童で、下の面倒を見て、責任感があると思う。義務教育学校になるとそういったものがなくなってしまわないか。また、小学校で学び、卒業式を行い、新たな気持ちで中学校に行くというのもなくってしまう。調べたら義務教育学校だと、中学校の教員免許を持っている人でないと先生になれないとあるので、義務教育学校ではなく小学校は小学校、中学校は中学校の方が個人的には良いと思う。

児童数が小貝小は減ってきているが、みどりの森を2つに分けて北部の子達は、小貝小には入れるような学区割りの変更していけば、せっかくの木造の新しい校舎なのでそっちでしばらくは凌げるのではないかと思う。

Bグループ

4つ意見があり1つ目は、バス通学にした方が将来的には良いのではないか。また、現状学童の利用者が多いので1つのバスに2、3人しか載っていない。また、スクールバスの時間が固定されているので、放課後広い校庭を使って遊ぶというのができず、学校が終わったらすぐに帰らなきゃいけないというのも子ども達の生活の自由度を制限しているのではないか。2つ目は、歩道についてです。歩道は場所によって草が生い茂っていたり、街灯がなく白線はあるけど縁石がないところがあります。今スクールバスの運行は離れたところのバス停から学校までとなっていますが、例えば学校から半径1km以内は歩くようにし、その範囲内の歩道を整備して、そこまでスクールバスの運行をさせるというのも、子ども達がスクールバスを使うことによって体力が無くなってし

まうのではないか、歩けなくなってしまうのではないかという懸念点をカバーするいい案だと思います。3つめは、送迎の待合所を設置するです。中学生が役場周辺で送迎の待ちをしているが、中学生なので前に来たり座って話し込んでいるので、それに対応するためにはあってもいいのかなと思います。また、先程話した半径1 km以内は歩いていくの案にもありますが、待合所の確保が必要になってくると思います。最後に現在、見守り隊が、交差点に旗を持って子ども達が安全に通れるように立っています。地域の方が、子ども達の安全のために活動している役割は残していくべきだと思います。

委員

スクールバスに2、3人しか乗っていないというのは、自分も見えています。規定で3 kmの基準があるため柔軟性をもって対応してほしいと思う。

委員

市貝町の街灯がなく暗いというのは、町民に昔から言われてきたが、今年予算を倍増し防犯灯を各地に付けることになります。明るさを保つのは難しい問題ではありますが、あまりに暗いと自転車で通学するのが大変。

委員

小学校低学年の内はスクールバスで通えるようにし、高学年になったら友達と歩いて通いたくなるかもしれないので、2 kmから 3 kmの選択可能域を作るのも良いかと思っています。

Cグループ

案として現状のまま、中学校1校に小学校2校、小中学校を1校にするという案ができました。現状のままについては、現在の施設の修繕をし、地域との繋がりを考えるのであれば今のままでよいという意見です。次に中学校1校・小学校2校については、赤羽小と市貝小を残しその際に学区の編成を行うものです。最後に小中学校を1校にするものは、2つの考えがあり、1つ目は、市貝中や市貝小に統合するものです。理由としては、箱モノを増やさないということ。もう1つは、中央公民館付近に新設という案です。図書館や陸上グラウンド、武道館が近くに隣接していることからこれらの施設を利用しながら学校に通えます。

委員

補足事項ですが、中央公民館があるところは、総合都市公園に指定されるのでそこを留意していただきたい。

委員

昔あった上根小学校の学区の児童たちは現在、市貝小学校に通っているため、赤羽小学校へ学区変更しても市貝小学校はみどりの森の子ども達で賄えると思います。そうすれば、現在の学校のままでも30人学級を維持でき、子ども達に目が行き届いた指導を

することができます。

委員長

選択可能なものがすべて出ている印象。長期的な予測は立てづらいが今いる人口は10年程度しか持たない。

委員

今回の検討委員会は10年先、50年先どちらを考えているのか。

委員長

両方になります。今のことを考えるのは当たり前ですが、建て替えなどをした場合と既存の施設を長寿命化などで維持した場合では、新設の方が安くなる場合もあります。忘れてはいけないのは、子どもの環境です。子どものためにどのような環境を残していくのが軸となる。

—————議事内容（2）終了—————

5.その他

特になし。

6.閉会